



滋賀県議会議員

田中松太郎

今年は五年。牛は農作業を最後まで手伝ってくださる働きぶりから、五年は「我慢(耐える)」「これから発展する前触れ(芽が出る)」というような年になると言われています。



プロフィール ■ 1972年 滋賀県甲賀市生まれ ■ 甲賀市甲賀町 在住 ■ 家族構成: 母・妻・長男(大学生)・次男(高校生) ■ 総務・企画常任委員会 副委員長、地方創生・ICT推進対策特別委員会

田中松太郎 事務所 甲賀市水口町北脇436-1 TEL.0748-63-5340/FAX.0748-63-5341

田中松太郎 検索



令和三年 油日神社にて

11月定例会議一般質問

第72回全国植樹祭開催に向けた進捗と延期に伴う影響について

天皇、皇后陛下が地方を訪問される四大行幸啓とよばれる4つの行事(全国植樹祭、国民スポーツ大会、全国豊かな海づくり大会、国民文化祭)のなかで、滋賀県で令和3年度に開催予定だった全国植樹祭はコロナの影響で1年延期され令和4年度に、また令和6年度に開催予定の国民スポーツ大会は令和7年度に延期になりましたが、二つの行事が県内で開催されるといことは大変ありがたいことです。



に発信します。2つ目、県民総ぐるみで全国植樹祭を盛り上げ、全国から参加される皆さんを「おもてなしの心」でお迎えします。3つ目、全国植樹祭の開催にあたっては、経費の節減に努めながらも、多様な主体と連携しながら、県民の皆さんと森林に関わる人々の心に残る、滋賀らしい大会となるよう努めます。4つ目、全国植樹祭の開催を契機とし、開催後も県民総ぐるみで将来を見据えた持続可能な森林づくりを目指しているよう、SDGsの視点を活かした大会とします。5つ目、会場整備や大会運営にあたっては、環境に最大限配慮した大会を目指します。とされています。



質問動画

Q コロナの影響で4月に1年延期が決定し、今年度の計画も大幅に見直しとなったが、今年度の主な取り組み状況について。

A 琵琶湖環境部長 事業計画の見直しやそれに伴う予算の減額補正、先催祭の情報収集、広報用資材の再作成等を実施しました。

また、外出が制限される中でも大会に向けた機運を高揚させていくために、自宅の窓に色紙やセロファンで森や山の風景を作るフォトコンテストなど、新たに考案したソフト事業を中心に取り組みました。11月22日には、秋のプレ植樹祭 in みなくち子どもの森を甲賀市で開催し、準備期間の長期化で大きくなってしまった苗木の有効活用して参加者に秋の森を満喫してもらった他、「企業の森の植樹イベント」と連携した「秋のプレ植樹祭」を新たに開催しました。

Q 開催年の変更により、PR関連等で、どのようなものに影響が出たのか。

A 琵琶湖環境部長 全国植樹祭の広報のために作成していた広報誌、ポスター、バックパネルのほり、横断幕、イベント用の法被など、開催年を表記したものを作り直す必要が生じました。また、6月開催予定だった「1年前記念イベント『緑のしずく祭』」については、ポスターやチラシがすべて使用できなくなりました。

これらについては、改めて数量等を精査の上で再作成することし、優先順位を決めて取り組んでいます。

Q 全国植樹祭の開催に見込んでいた総額に対し、延期に伴って増額となる経費についてどのように考えているのか。

A 琵琶湖環境部長 単に令和2年度の予定を令和3年度に先送りするため、実施計画策定費や、会場造成整備費、1年前記念イベントの開催経費など、経費の増減に影響が生じないものがある一方で、どうしても経費が増加するものもあります。

Q 現在の苗木のホームステイ・スクールステイの状況と、1年延期による影響について。

A 琵琶湖環境部長 全国植樹祭や関連イベント等で使用する苗木を、県民や企業、団体等に協力してもらいながら育てる「苗木のホームステイ」は、平成30年度、令和元年度の募集に対して、218件の個人・企業・団体等が参加しています。令和元年度には苗木のスクールステイとして森林環境学習やまのこ連携して228校が参加し、ホームステイ・スクールステイ合わせて1万本を超える苗木が育成中です。

しかし1年延期に伴い、苗木が大きくなりすぎる問題が生じたため、「秋のプレ植樹祭」での植樹に活用しました。

今後、関連イベントで苗木の活用を図るとともに、「ホームステイ参加者には、機関紙「苗木だより」を通じて育て方のアドバイスをするなど対応していくほか、スクールステイ参加校には新たに壁新聞を作成し、次世代を担う子どもたちに森づくりの大切さを伝えて行くようにしています。

Q 次世代を担う子供たちが緑と親しみ、緑を愛し、緑を守り育てる活動を通じて、ふるさとを愛し、そして人を愛する心豊かな人間に育っていくことを目的として作られた緑の少年団の現状と活動状況、延期に伴う影響について。

A 琵琶湖環境部長 県内の緑の少年団は、植樹祭を契機に新たに22団が結成され、現在、61団約5,200人の子どもたちが各地域で緑の募金や緑化活動を行っています。

今年度の活動は、11月22日に「緑の少年団 子ども水源の森サミット」を開催し、県内および下流府県の少年団がリモート映像を活用して交流するなど、植樹祭に向けて機運の醸成を図っています。

緑の少年団は、全国植樹祭において天皇皇后陛下のお手植えお手播き行事の介添えや苗木の贈呈など、式典行事の中心的な役割を担いますが、1年延期に伴って式典行事の介添え等を想定していた現在5年生の子どもたちは卒業により参加できなくなってしまうことから、今後、式典行事のみならず関連イベント等も含め、どのような形で関わっていくかを検討中です。



Q 来年度の第71回全国植樹祭島根県は、コロナの影響もあり規模を大幅に縮小して開催されると聞かれましたが、再来年の第72回全国植樹祭の開催に当たってのコロナ対策や規模等の現時点での考え方について。

琵琶湖環境部長 島根県での具体的な縮小内容は、招待者を当初計画の約4千人から約1千人に減らす、映像の利用を検討する、サテライト会場は設置しない、おもてなし広場も設置しない、歓迎レセプションも開催しない、などです。

田中松太郎の日々の活動は SNS等で配信しています！
公式ホームページ: http://matsutaro.jp/
Facebook: 田中松太郎
Instagram: 田中松太郎

●もしサポ滋賀運用の周知徹底
※この質問で、新型コロナウイルス感染症拡大で打撃を受けた飲食店を支援する国の「GoToイート」に加盟する県内の2,793店(12月3日現在)のうち3割以上の902店が、参加条件となっている県の感染拡大防止システム「もしサポ滋賀」を導入していないことが判明。12月9日のびわ湖放送の夕方のニュースで取り上げられた他、新聞各紙に掲載されました。